

第45回 公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会報告

10月29日(水)、第45回公立小中学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会が開催された。ハイブリッド形式3年目となり、栄養教諭・学校栄養職員だけでなく、多くの関係教職員の参加があった。大会主題「深めよう 心と体を育む食教育」の下、講演、実践発表、指導講話により充実した研究大会となった。今後の各校での食育活動の発展に向け、考えを深めることができた。

1 講演 「健康課題を抱える子どもの食支援」

講師 独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター
栄養管理室 室長 西本 裕紀子 先生



子どもの食支援について幅広い内容で御講話いただいた。子どもに関わる管理栄養士には、小児の特性を理解し、栄養に起因する諸問題に対応して子どもと養育者を適切に支援することが求められている。子どもの肥満は、「成長期」「受動的」という意味で大人とは違う。子どもたちが Wellbeing な生活を送るための支援ができるよう、今後も学び続けたい。

2 実践発表 「児童生徒の実態に応じた食に関する指導と学校給食の管理」

発表者 松山市立桑原小学校 栄養教諭 木下 葵 先生

味覚教育を通した食育活動の取組について発表していただいた。“きゅうしょくだいす木”の取組では、児童が味わった感想を文章で表現させ、栄養教諭がコメントをすることで、黙食でも出来る工夫がされていた。また、毎月のみそ汁の感想を月ごとに視点を変えて書かせることで、味覚教育が継続できるようにされていた。取組を通して、食と自分に向き合い、自らの食生活に生かそうとする児童が育っていた。各教科等と食育を連携させた取組は、どの学校においても参考となるものであり、今後の食育活動に生かしていきたい。



発表者

3 指導講話 「学校における食に関する健康課題」

講師 愛媛県教育委員会保健体育課 指導主事 折井 智栄 先生

学校生活管理指導表の改訂へ向けて、医師会からの情報や市町間の対応等の違いや学校・家庭・医療機関における課題について、現段階での方向性をお話いただいた。栄養教諭・学校栄養職員として、食物アレルギーに関する正しい知識をアップデートする必要性を再認識した。また、個別的な相談指導については、食に関する指導の全体計画にアレルギー調査や健康相談について記載することで、全教職員が実施時期等を情報共有することが出来ると御指導いただいた。今後も、食に関する様々な健康課題に対して継続した取組を重ね、食育の環を広げられるよう努めたい。



参加者アンケートより

【栄養教諭・学校栄養職員】

- 講演は、学級担任や養護教諭と共有したい内容でした。公立学校と医療機関とが繋がりやすい環境になれば、より良くなると感じました。子どもを取り巻く環境が変化する中で、手遅れになる前に、働きかけられる栄養教諭でありたいと思いました。

【養護教諭等】

- 食育の大切さを感じた一方で、様々な課題も蓄積していると思います。私たちだけでは困難な課題もありますが、異業種連携で、解決したいと思いました。
- とてもタイムリーな内容で、今後の業務の参考になるものでした。アップデートする機会になりました。